

家庭科（家庭総合）学習指導案

指導者

印

- 1 履修単位数 2単位
- 2 実施日 令和3年11月15日（月）第6時限
- 3 学 級 HR（ 名）
- 4 使用教科書 家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍）
- 5 単元（題材）名 住生活をつくる
- 6 単元設定の理由

教材観：住まいと人との関わりを踏まえ、各ライフステージの住生活の特徴について理解し、生涯を見通した住生活の計画・管理ができるようになることが重要である。また、安全や環境に配慮した住居の機能について科学的に理解し、日本と世界の住文化の継承・創造について関心をもち、平面計画やインテリア計画などの実習を通して、住生活の自立に必要な知識と技能を身に付けさせることが大切であると考えられる。

生徒観：本学級の生徒の中には、高校卒業を機に一人暮らしを希望している生徒もいる。しかし、物件情報を検索したことがある生徒は少ない。また、清掃が苦手で、住居の維持と管理についてもどこか他人ごとである。これらのことから、生徒は住生活について意識は低いと考えられる。

指導観：生徒が住生活について、「自分」のこととして意識づけるためには、実際に物件を検索したり、動線を考えたりすることが必要である。また、実生活を振り返る場を設定し、日常生活と関連付けることでより知識を深めることができる。そこで今回は、生涯を見通した住生活の計画・管理について理解させるとともに、タブレット端末を有効に活用し、自立した消費者として意思決定をし、行動することができる力を育成したい。

7 単元目標

- ・住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化など、住まいと人との関わりについて理解する。
- ・安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、住生活の計画・管理に必要な技能を身に付ける。
- ・家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画について理解する。

8 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
住居の機能、住空間の計画、住環境などの住生活の科学与文化に関心をもち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	住空間の計画、住環境などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現している。	主体的に住生活を営むために必要な住空間の計画などの技術を身に付けている。	住居の機能、住空間の計画、住環境などについて、科学的に理解し、安全と環境に配慮した住生活を主体的に営むために必要な知識を身に付けている。

9 指導と評価の計画（14時間）

- 第1次 住生活について考える・・・・・・・・・・・・・・・・・・6時間（本時2／6）
- 第2次 住生活の計画と選択・・・・・・・・・・・・・・・・・・4時間
- 第3次 住生活の文化と知恵・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間
- 第4次 これからの住生活・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間

	【ねらい】・学習活動	評価の観点				評価規準・評価方法
		関	思	技	知	
第1次	住居の機能やライフステージごとの住要求について理解する。平面図や物件情報の読み取り方を理解する。	●	●	●	●	家族の生活の場としての住居の条件について、生涯を見通して考えようとしている。平面図を読み取ることができる。（学習ノート・ワークシート・観察）
第2次	安全で快適な住生活を営むことのできる住居の条件を知り、地震や災害に強く、日当たりや風通しのよい住居について考える。		●	●	●	安全で快適な住生活を営むことのできる住居の条件を理解している。（学習ノート）
第3次	世界と日本のさまざまな住文化について理解する。		●		●	気候や風土に応じた各地域の住居の特徴や変遷について理解している。（学習ノート・ワークシート・観察）

第4次	地球環境と住居の関係性を知り，持続可能な住居や都市について考える。	● ●	地球環境に配慮した快適な居住環境について考えている。(学習ノート)
-----	-----------------------------------	-----	-----------------------------------

10 本時の指導目標

・様々な視点から物件情報を読み取り，ライフスタイルや価値観に応じた適切な住居の選択について考えることができる。(思考・判断・表現)

11 本時の展開

時間(分)	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体的評価規準	評価方法
導入(5)	<ul style="list-style-type: none"> 前時の復習をする。 本時の目標を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の授業を振り返り，平面表示記号や動線について確認させる。 本時の目標を示す。 		
<p>様々な視点から物件情報を読み取り，ライフスタイルや価値観に応じた適切な住居の選択について考えよう。</p>				
展開(40)	<ul style="list-style-type: none"> 物件情報の読み取るポイントを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1件の物件情報を例にし，初期費用の計算方法や距離の計算，読み取れる情報について説明する。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 物件情報を各視点から読み取り，Metamojiにまとめる。 グループで5件の物件情報を共有し，自分が住みたいと思う物件を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 高卒で「一人暮らしをする」という共通の設定から考えさせる。 5件の物件情報の中から指定した1件の物件情報を読み取らせる。 お金，築年数，部屋の広さ，設備，交通面から考えさせる。 机間指導を行い，状況に応じて助言をする。 自分が不動産会社の社員であると仮定して，担当した物件を班員に紹介させる。 意見交換をしやすい雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な視点から物件情報を読み取り，ライフスタイルや価値観に応じた適切な住居の選択について考えている。(思考・判断・表現) 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 観察
	<ul style="list-style-type: none"> 自分が住みたいと思った物件とその理由を発表する。 賃貸物件を借りる前の注意点を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 人によって重要視する視点が異なっていることに気付かせる。 実際に見学をしないと分からないことが多いことを理解させる。 生活費についても考えさせる。 2022年から18歳になると，保護者の同意なしで契約出来るようになることや，容易に契約を解除することができないことを理解し，しっかり考えてから契約するよう指導する。 		
まとめ(5)	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身が実際に物件を調べるとき，何を重要視するかを考えるとともに，後の生活についても見通して契約することが大切であると伝える。 		